以上は分解的光線の理に依つて畫く方法の概略であるが。之には長所もあれば短所もあるから之をよく辨へて適所に適法を用ゆるようにしたい。長所は即ち生命のない繪具に生命を與へて燿如たる光の印象を面白く捕へるのであるから。光が強ければ倍々面白い結果が得られるけれども。光が弱くなるに伴れて其効少なく。月光の如き靜かな光になれば殆んど用に適しないことゝなる。此方法で月の光を畫けば其幽雅なる感じは悉く破壞されてしまう。

尙其上に此方法では技巧上他に仕方がないから點や線で畫くのであるが。之は自然の微妙なる色や光の有樣に幾分似たものは出來るが。其樣な點や線は自然には見えない。云はゞ之は假用手段であるが假用である爲めに現在の儘では多少態とらしい處が有る。態とらしい處と云ふのが即ち此方法の缺點であろう之に就てミレーが『技巧は描くべき物體の背後に溫順しく隱くれて居る可きものである』と云つて居るのは眞を穿つて居る。

最後に申添へたいことは。光の振動と畫面の空氣とは何等の關係が無いと云ふことである。之には大分反對說もあるようだが自分は斯う斷言する。ホイッスラーの作に就て見ても空氣はよく現はれて居るが光は描いて無い。モネーは光は能く現はして居るが動やともすれば堅くなつて空氣が欠乏するのである。空氣を畫くには色の融合を應用するより外には途が無いのであるが。之に就ては次章に委しく述べよう

（バーヂハリソン稿）

注　意

六十九號所載「風景畫法」一、「色彩」の部三頁十七行目の「日陰は室の反射で寒くなる」は空の誤植なり。これは重大なる誤りにつき御手數でも雜誌を出して訂正して置て下さい。

＊　＊　＊　＊　＊